

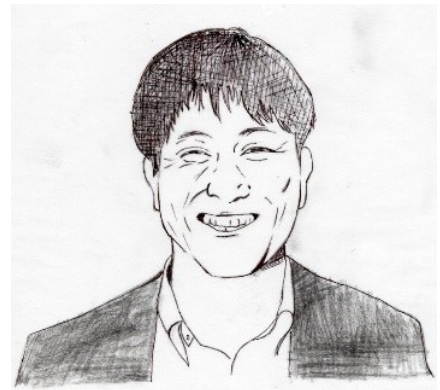
人権だより

No.335(2026.5)

～「I have a dream」－「人権」の本質とは～

きょうとう かん の けいさく
教頭 菅野 圭作

「人権」の本質は何かと聞かれると、私は「一人ひとりが大切にされること」だと考えます。しかし現実には、その当たり前が守られてこなかった歴史があります。英語教師として英語を教え学ぶ中で触れることの多いアメリカの歴史には、黒人差別という重い現実がありました。肌の色が違うというだけで、不平等な扱いを受け、人々の命が奪われ、苦しみました。その差別に立ち向かった人々の中に、キング牧師がいます。彼は「I have a dream」と語り、「人は外見ではなく、その人の中身で評価される社会」を強く願いました。暴力ではなく、言葉と信念で人々の心に訴え続けた姿は、今も人々に勇気を与えています。



では、私たちはどうでしょうか。差別というと遠い国の話のように感じるかもしれません。しかし、日常の中に目を向けると、「からかい」や「何気ない一言」で誰かを傷つけてしまう場面はないでしょうか。「みんなと違う」という理由で距離を取ったり、無意識に偏った見方をしてしまったりすることがあるかもしれません。キング牧師の信念は、特別な人だけが実践できるものではありません。むしろ、私たち一人ひとりの行動の中でこそ生かされるものです。例えば、誰かが困っていたら声を掛けること。違いを笑うのではなく、理解しようとする。誰かの悪口に流されず、自分の考えで行動すること。どれも小さなことに見えますが、その積み重ねが周りの空気を変えていきます。

人権を守る社会は、誰かがつくるものではなく、私たち自身が日々の中で育てていくものです。あなたの一言、あなたの行動が、誰かにとっての「安心」や「希望」になるかもしれません。「それは違う」と声を上げる勇気や、誰かに寄り添う優しさは、たとえ小さな行動だとしても、その行動はやがて大きな変化となり、誰もが安心して自分らしく生きられる社会へとつながっていきます。

ます。今日という一日が、誰かを大切に^{きょう}にする^{いちにち}行動^{だれ}の^{たいせつ}第一^{こうどう}歩^{だい}になる^{いっぽ}ことを願^{ねが}って
います。そして、よかったらYouTubeなどで、キング牧師^{ぼくし}の「I have a dream」
の演説^{えんぜつ}を見て、その言葉^みの力^{ことば}とまっすぐな願^{ちから}いに触^{ねが}れてみて^ふください。

【人権委員の声】

- 私は「人権」は特別なことではなく、普段の生活の中で相手を思いやることから始まるのだと感じました。差別をなくすためには、一人一人が相手を理解しようとする気持ちを持つことが大切だと思いました。また、自分の言葉や行動が誰かの安心や希望に繋がるかもしれないと知り、私も周りの人を大切に^{きょう}にして行動^{いちにち}していきたい^{だれ}と思いました。
- 誰かに寄り添ったり理解しよう^{たいせつ}とした^{こうどう}りすることの積み重ね^{だい}が大切だ^{いっぽ}と思いました。自分や相手のことを尊重し、理解し合うことで、誰もが自分らしく^{ねが}生きられる社会へとつながる^ふと思います。
- 「ステレオタイプ」という言葉のように、人は無意識にイメージを持つ事が多いと思います。しかし、大切なのはそのイメージに捕^{ぼくし}われるのではなく、視野を広げて受け入れることなのではないかと感じました。自分と違うから、マイノリティだからと離れるのではなく、みんな違ってみんないい、一人ひとりの個性として向き合っていけば、より良い生活、関係性、社会へとつながっていくと思います。自分が冗談で言ったつもりのからかいが、相手を傷つけることもあります。そういう何気ない日常の中でも言葉の重みを考えて発言したいです。
- 今まで人権同和教育活動を行ってはいましたが、差別やいじめは遠いものだと思って、真剣に考えていませんでした。自分では意識していないうちに起こる差別やいじめは、やろうとしているのではなく、偏った知識や見方から起こるのだとわかりました。自分では意味のないと思っている行動・言葉も、誰かの支えになるかもしれないと考え、これからは勇気を出して誰かに寄り添えるようにしたいです。

以上、6年生人権委員の感想でした。

【歴史を動かしたキング牧師の演説について】

1963年8月28日、アメリカの首都ワシントン D.C.で行われた「ワシントン大行進」の際、リンカーン記念堂の階段から約25万人の前でこの歴史的な演説が行われました。

【スピーチの歴史的背景と概要】

黒人への人種差別や隔離政策の撤廃、そして経済的な不平等の解消を求めるデモ(ワシントン大行進)の締めくくりとして行われました。即興のフレーズ: 実は、事前に用意された原稿に「I have a dream」という言葉はありませんでした。演説の途中で、聴衆の中にいた歌手マヘリア・ジャクソンから「彼らに夢を語ってあげて！」と声をかけられたことをきっかけに、キング牧師は即興でこのフレーズを語り始めました。

有名な一節(日本語訳):「私には夢がある。いつの日か、私の4人の子供たちが肌の色ではなく、人格の尊厳によって評価される国に住むようになるという夢が」

「私には夢がある。いつの日か、ジョージアの赤土の丘の上で、かつての奴隷の息子たちとかつての奴隷主の息子たちが、兄弟愛のテーブルにともに着くことができるようになるという夢が」

【スピーチがもたらした影響】

この演説はアメリカ社会を大きく動かし、翌1964年の公民権法(人種差別を法的に禁止する法律)の制定に決定的な影響を与えました。また、キング牧師はその同年にノーベル平和賞を受賞しています。